

連載

- 32 土木学会を知ろう ― 委員会の紹介 第5回
土木計画学研究委員会
兵藤 哲朗 東京海洋大学 教授
- 36 Studying Abroad No.5
ガスコンバインド火力発電所新設プロジェクト 奮闘記
藤田 勇樹 J-POWER Generation (Thailand) Co., Ltd. (土木職)
- 37 この本を薦めます 第5回
高橋 薫 土木学会調査役
- 38 地域レポート
まちをつなげる! まちを変える! 首都圏5社相互直通運輸の開始 ― 東急東横線渋谷一代官山駅間地下切替工事―
原 清 東京急行電鉄(株)鉄道事業本部工務部第一工事事務所 事務所長
- 42 被災地からの発信 [第3回]
地域を守る地場建設業の一員として
上野 裕矢 刈屋建設(株)総括取締役次長
- 44 月評 3月号を読んで
西川 和廣 佐藤 滋 加島 寛章
- 46 論説
第70回論説(1) 人口減少の中での社会資本整備 (50年後の日本を見つめて)
南部 隆秋
第70回論説(2) 災害常襲列島日本が築くべき国力としての総合防災力と総合土木力
岡田 憲夫

学会情報

- 48 土木学会の動きからピックアップ
土木学会認定土木技術者資格制度
2013年度の土木技術者資格審査のご案内
- 50 土木学会の動き
50 理事会報告 平成24年度 第5回理事会議事録
53 委員会報告 土木技術映像委員会、土木学会製作の貴重映像「勝開橋」を発売
―2013年2月5日、東京都に複製を贈呈―
56 委員会報告 「美しい国づくり政策大綱」の原点に立ち返って
―デザイン賞2013の募集にあたって―
58 会員支部部門 支部をベースとする「シビルネット」活動
―「市民とともにある国土と社会基盤」を目指した新たなアプローチ―
62 協定学協会 アジア土木学協会連合協議会河川環境専門委員会による「河川環境と河川生態系のための先進技術に関する特別セッション」が韓国済州島で開催される
63 協定学協会 日英土木学会ジョイントセミナー「大災害への回復力と適応性に優れた社会」がロンドンで開催される
64 お知らせ 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震災害調査報告書
―地震・地震動および社会基盤施設の被害― 予約販売のお知らせ
65 お知らせ 平成25年度定時総会(通算第99回)のお知らせ
66 お知らせ 会費前納制度への応募について/会費の免除について

- 68 ニュース / 69 公募情報 / 70 新刊紹介
71 会員入退会 / 73 土木学会論文集目次 / 75 会告情報欄
78 次号目次(予定) / 78 PR欄目次 / 79 土木学会会員の方へお知らせ
80 本部分行事参加申込書 / 81 図書・試験器類等購入注文書

Vol.98 no.5 May 2013

- 02 Admiration of Civil Engineering Heritages by JSCE: Civil Engineering Heritage Sites Selection:TAKIMIYA BRIDGE The laparotomy arch-bridge built over the most Scenic Valley in the KONPIRA main road OONAMI Syunji
- 04 Feature articles: Conserving the sandy beaches in Japan – Various approaches to coastal erosion –
- 06 Functions and Present State of Beaches – On the Basis of History of Coast and Coastal Engineering – ISOBE Masahiko
- 10 Restoring Shore in Japan – An Example in a Sediment Transport System composed of the Tenryu River and the Enshu Coast – KISHIDA Hiroyuki
- 14 A Cooperative Research Project of Sediment Management on the Enshu-Nada Coast AOKI Shin-ichi
- 16 Present and future status of the sand fill project in Tottori sand dune coast MATSUBARA Yuhei
- 18 Sandy Beach Erosion in Seto Inland Sea TSUJIMOTO Gozo
- 20 The Examination of the Relationship between Activities of Creatures and Sand Coasts through the Observation on the Maite River Mouth. ASHIKAGA Yukiko
- 22 Reproducing the rocky shore to live – The kinoppu coast – SAKAI Takashi
- 24 Beachfront revitalization planning for population reduction society of Japan – About the system of shoreline setbacks in U.S. Hawaii OKADA Tomohide
- 26 Further Study
- 28 Working abroad: Issues and Prospects of the Kabul Metropolitan Area Development IWAMA Toshiyuki
- 30 My life as Civil Engineer: Vol.5
- 32 Committee report Committee of Infrastructure Planning and Management HYODO Tetsuro
- 36 Studying Abroad Experience note at new establishment project of gas-combined thermal power plant in Thailand FUJITA Yuki
- 37 Book review
- 38 JSCE Member's Report The railway project of change to underground the Toyoko line will extend the railway network and change the Shibuya terminal HARA Kiyoshi
- 42 Letters from Tohoku As the member of the professional construction industry who protects the area UENO Hiroya
- 44 Reviewing March issue
- 46 Adviser's column
- 48 Pick-and-Choose Updates
- 50 JSCE Updates
- 68 News
- 69 CE Careers
- 70 New books
- 73 New Paper on J-STAGE
- 75 JSCE Calendar
- 78 Next Issue

京都には琵琶湖の水を市内に運ぶ、120年以上前につくられた壮大な規模の水路があり、今も現役の施設として市民生活の中に溶け込んでいる。大橋学を出たばかりのエリート青年・田邊朔郎が主任技師を務め、お雇い外国人の力を借りずに日本人のみの手で行われたことでも有名である。今号はその『琵琶湖疏水』に迫る。

当時の京都は、明治維新の東京遷都によって衰退しはじめていた。京都府知事の北垣国道は、京都を近代的な産業都市として復興させることを意図し、水道、発電、防火用水、灌漑、舟運などを目的とする巨大事業を、さまざまに批判がある中で断行した。

その成果は「日本初」尽くしとなって花開いた。堅坑式のトンネル工事、水力発電、インクライン、鉄筋コンクリート橋がその代表例である。こうした事実が当時の技術者たちをどれだけ奮立たせたかに思いを馳せると、非常に感慨深い。

■今月の表紙

技術の手触り⑨

琵琶湖疏水

(滋賀県大津市―京都府京都市)

文・写真: 八馬智 HACHIMA Satoshi
図面出典: 『琵琶湖疏水工事図譜』

特集

04 消えゆく浜辺をまもる —海岸侵食をめぐる多彩なアプローチ—

- 06 砂浜の機能と現状 —海岸の変遷と海岸工学の展開を踏まえて—
磯部 雅彦 高知工科大学 副学長
- 10 日本の海辺を再生する —天竜川流砂系を例として—
岸田 弘之 (前)国土交通省国土技術政策総合研究所
- 14 産学官連携の土砂管理技術開発 —遠州灘プロジェクト—
青木 伸一 大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 教授
- 16 鳥取砂丘海岸でのサンドリサイクル事業の現況と展望
松原 雄平 鳥取大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授
- 18 瀬戸内の海岸侵食事情
辻本 剛三 神戸市立工業高等専門学校 都市工学科 教授
- 20 舞手川河口に見る生物の営みと砂浜海岸
足利由紀子 NPO法人水辺に遊ぶ会 理事長
- 22 生きるために磯をつくる —木野部海岸—
坂井 隆 NPO法人サステナブルコミュニティ総合研究所 事務局長
- 24 逆人工化を目指す海岸まちづくり
—米国ハワイ州の海岸線セットバックルール—
岡田 智秀 日本大学理工学部まちづくり工学科 准教授
- 26 特集関連資料の紹介 日本の海辺をさらに知るために

連載

- 02 見どころ土木遺産 第106回
滝宮橋 —金比羅街道随一の景勝地に架かる開腹アーチ橋—
大波 修二 (株)オリエンタルコンサルタンツ 都市デザイン部
- 28 海の向こうの仕事から 第5回
30年の戦禍からの復興 —カプール首都圏開発の課題と展開—
岩間 敏之 (独)国際協力機構 職員
- 30 学生が行く! 土木のお仕事 第5回
ヒトから学ぶ「幅広い土木のお仕事」(人物編+α)
金融力で災害に強い日本社会をデザインします
蛭間 芳樹氏 (株)日本政策投資銀行 環境・CSR部 BCM格付主幹
天然ガスパイプラインで日本のエネルギーを支える
神保 和徳氏 国際石油開発帝石 (株)



表紙の写真と裏表紙の図面は、疏水分線の「南禅寺水路閣」である。レンガ造の連続アーチは、琵琶湖疏水のシンボリック存在として市民のみならず多くの観光客の目を惹きつけている。

この「西洋風」の水路橋は、古都を代表する伝統と格式のある禅院の敷地を大胆に貫いている。これは現在の価値観からすると、文化財軽視や景観破壊の極みとも思える。周辺環境の文脈において、まったく異質かつ乱暴に思えるものが、時を経てから重要な観光対象になるという事実は、パリにおけるエッフェル塔やポンピドゥーセンターなどを彷彿とさせる。

本質を見抜く関係者の慧眼、その時々の最新技術を丁寧に使って実行する知恵、それらを決断して実行するリーダーシップなどによって、後世に残すべき価値が宿るのだと、あらためて感じることができる。